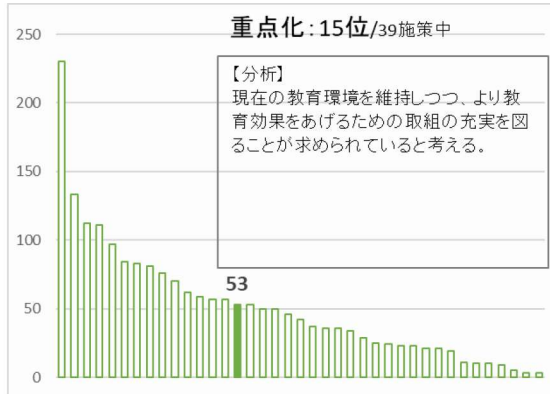


⑥ 小・中学校教育の充実 <<評価：72.0点>>

市民意識調査結果



施策成果指標

施策に対する成果指標名			単位	過年度実績		評価年度
				H29	H30	R1
成果指標	学校が休みの日に1時間以上学習する割合 (中1対象県学力・学習状況調査)	目標	%	58.0	58.0	58.0
		実績	%	54.9	49.3	69.6
		達成率	%	94.7	85.0	120.0
		ベンチマーク	—	—	—	
参考指標①	中学校の不登校出現率	目標	%	2.7	2.7	2.7
		実績	%	4.98	3.64	3.41
		達成率	%	54.2	74.2	74.2
		ベンチマーク	—	—	—	
参考指標②	義務教育9年間で児童生徒を育成する意識をもつ教員の割合	目標	%	90.0		
		実績	%	90.0		
		達成率	%	100.0		
		ベンチマーク	—	—	—	
参考指標③		目標	%			
		実績	%			
		達成率	%			
		ベンチマーク				

成果指標の妥当性

評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
	4		4	3	2	3	2
評価採点			3	3	3	3	3
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査は毎年異なった集団が受験するため、平均正答率の単純比較は誤解を招くおそれがあることから、学習状況を指標とした。学習習慣の定着を図ることを通して、学力向上を目指す指標であり、妥当性はある。 						
市民委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 別の指標もあるとより説得力も増すと感じます。 義務教育9年間で児童生徒を育成する意識を持つ教員の割合が目標90%は理解できない。1割は仕方ないというのなら、再教育なりなんなり手段を講じるべきだと思います。できている、できていないは別として、気持ちだけは持っていてほしい。教育委員会も。 なぜこの成果指標を定めているのか分からない。 生徒がどう感じたのか。小学生、中学生の意見も聞くべきでは？ 例えば、ALTについて、「中1の英語の点数」で評価してみても？ 						

事業構成の 適当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4		3	3	2	3	3
	評価採点			3	3	3	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた学校生活をおくるためにも、学習環境の整備は必要不可欠である。非常勤講師や図書館司書等の配置、備品・施設の整備、空調設備の整備、トイレの洋式化等は小中学校の教育環境整備に必要な経費であり、適切である。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境整備に必要な経費であることは理解できるが、どのように活用され効果があったかの報告・検証がない。 事業は過去3年間同じ成果指標をあげているが、新しく取り組む姿勢が感じられない。 ALTの幼稚・保育への拡充の成果は？ 							
施策の 有効性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4		3	3	2	3	3
	評価採点			3	3	3	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 学力をはじめ教育における成果は、集団の違いにより取り組みの成否を判断することの困難さはある。家庭学習時間は、年度比較では減少はしていても、同一集団の経年比較では改善傾向にある場合もあるが、望ましい学習習慣の形成は大切にしていきたい。不登校出現率は、教育支援センターの機能充実や外部機関との連携の充実を図ることで改善を図りたい。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 現成果指標では妥当。 							
R2年度の 取組内容	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
				3	3	1	3	2
	評価採点			3	3	3	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けて、整備されているICT機器も活用しながら授業改善を図る。タブレットを活用した産学官連携の学力向上実践研究事業や放課後等の補充学習の推進は継続していく。中学校区単位で、授業づくりや生徒指導等を中心に、小中学校9年間の連続性を大切にした取組みの充実を図る。また、各校の校内研究体制を整備し、教職員の資質向上に向けた取組みの充実を図ることで、児童生徒の学力向上につなげていく。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における学習面、心理面、サポートへの考え方が必要のように思います。 各地区の小学校の生徒数があまりにも少なくなっている。今後統合計画等進めなくてはいけないのでは？ 課題解決するために、他部門・関係団体との連携が感じられない。 タブレット利用に関する課題はないのか？（記述に具体性がないのでは？） 							
R3年度の 取組目標	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
				3	3	2	3	2
	評価採点			3	3	3	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 充実した教育環境を生かしながら、教員の授業改善に向けて重点的に取り組む。また、小中学校9年間の連続性を大切にした取組みを大切にするとともに、地域人材の活用や放課後等補充学習、まなび塾+等、外部環境も有効に活用しながら児童生徒の基礎学力の定着や向上を図るとともに、学校の組織力の向上をめざす。 児童生徒数の減少が進む中、中学校再編整備実施計画を進めていく。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 部活が少なくなり、選択肢が減る中で、外部環境を活かせたらと思います。 地域及び他部門との連携が乏しい。 新型コロナウイルスの影響を受けての課題はないのか？（記述に具体性がないのでは？） 							

市民委員から見た課題

- ・ コロナ禍における、課題解決への取り組みですが、今年度当初、1年生の学習はかなり困難を極め、タブレットも無く、何を学ぶにも親が付きっきりでした。今後同様なことが起こった場合に、何か良い取り組みを作っておく必要があると思います。更に2年生以上は、タブレットはありましたが、オンラインがあればより良かったと感じました。
- ・ 「将来を担う人材が育つまち」＝学力が高いというわけではなく、郷土への想いを育む教育をもっと取り入れても良いのではと感じました。
- ・ 地域人材の方にお世話になりました。地域人材の方々の支援報告又は結果などが分かるものを作っては？
- ・ 各課と連絡を密に進めてほしい。
- ・ 英語については、5歳までに耳を馴染ませることが大切なため、幼稚・保育に拡充していることは重要。
- ・ タブレットを使えばもう少し効率よくできると思う。教育委員会が学校側に提案すべき。
- ・ タブレット活用について、先生によってやる、やらないで差が出るのは義務教育ではよくない。公平でなければならないと思う。
- ・ 生まれ育った地域、地元の特色を学ぶことも重要だが、それはどこでもやっているため、こんな特色があったら備前市に住もうとつなげられればそれは備前市ならではの特色になる。

長期的に取り組むべき課題

- ・ 防災の拠点としての取組

委員会後の担当課対応

- ・ 進行年度（R2）の取組内容、翌年度（R3年度）の取組目標の記述（具体性が無い）
→GIGAスクール構想の実現に向けた内容を追記しました。